



ザトウクジラ

小笠原のホエールウォッチングの代表的存在。ブリーチと呼ばれるジャンプ、胸びれや尾びれで海面を叩くなど、様々なアクションで楽しませてくれる。

マッコウクジラ

潜水のチャンピオンの異名を持つマッコウクジラは、ボートで1時間ほどかかる父島の沖合に生息。尾を海面上に高く持ち上げ、深海へ静かにもぐりこんでいく。



好奇心が強くフレンドリーなミナミハンドウイルカ。



ミナミハンドウイルカ

運が良ければダイビング中に姿が見られることもあり、目の前でくるくる回って遊んでくれることも。

ハシナギイルカ

ジャンプが得意で、前転やバク転、体をきりもみ状にしながら水面を飛び跳ねる姿がよくみられる。スポット移動中にボートの上からウォッチングを。



マンタ

島の至るところで遭遇することができる。時には定期船が入港する湾内に現れることも。1月～5月は特に多く見ることができる。

イソマグロ

本来遠めでの回遊魚だが、ケータや母島では春先から初夏にかけて目の前で2m近い巨体を観察することができる。



小笠原で会える

World Natural Heritage Ogasawara Islands

世界自然遺産 小笠原諸島

海の生物ガイド

黒潮から外れ、ミクロネシアからの海流の影響を受けている小笠原の海では、超大型の回遊魚や色とりどりの熱帯魚、アオウミガメや小笠原にしかない固有種の数々に加え、ザトウクジラやマッコウクジラ、ミナミハンドウイルカやハシナギイルカなど様々な海の生物に出会うことができます。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水温	20℃～21℃		23℃		25℃～26℃		26℃～28℃		24℃		22℃	
見どころ	ミナミハンドウイルカ、ハシナギイルカ						ドルフィンスイミングベストシーズン					
	ザトウクジラ				マッコウクジラ							
					ユウゼン玉				ウシバナトビエイ			
							イソマグロ大群					
						ケータベストシーズン						

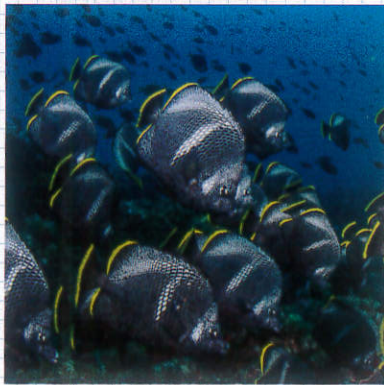


アオウミガメ

小笠原はアオウミガメの日本最大級の繁殖地。6～7月頃に産卵、8～9月頃に孵化する。海の中では1年を通して見られる。

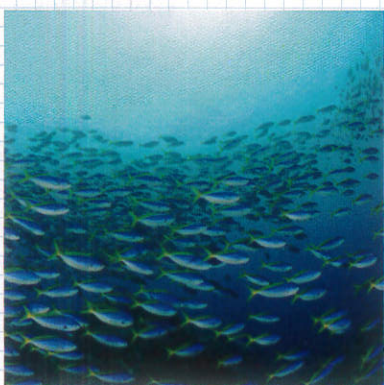
ユウゼン

日本固有種で友禅染めから名前が来る日本の魚。控えめな色合いだが非常に美しく人懐っこいため間近で観察することができる。



ウメイロモドキ

大きな群れを作る魚。目の前が見えないほどの青い壁は感動すること間違いなし。



オビシメ

固有種

小笠原固有種のブダイの仲間。帯を締めたような模様があり、それが和名の由来となっている。オスとメスで帯の色が違う。

ニラミハナダイ

国内では小笠原ぐらいでしか見ることができない非常に美しい魚。オスとメスで体色が異なり、オス少数メス多数のハーレムを作って生活している。



アカイセエビ

大人の太腿ほどの大きさがあるイセエビ。岩と岩の間に潜み、群れているスポットは「エビ団地」と呼ばれ人気スポットに。



シロワニ

父島やケータでよく見られる体長3メートルにもなるサメ。大きな体と鋭い歯で一見かなり怖い、性格はおとなしい。



ピグミーシーホース

体長約1cmほどの小さなタツノオトシゴの仲間。ヤギに擬態するように暮らしている。日本では小笠原で初めて発見された。



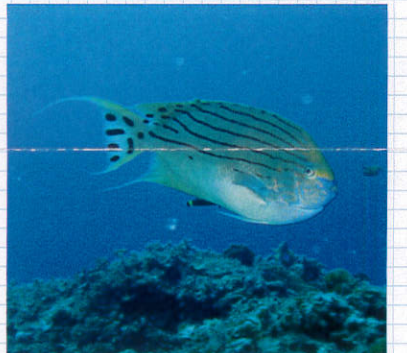
シコンハタタテハゼ

虹色に体色が美しい人気のハゼ。通常は水深30メートルよりも深場にいることが多いが、小笠原では水深25メートル前後で見ることが出来る。

ミスタマヤッコ

固有種

水深30m以深の深場に生息する魚だが、世界で小笠原にしかない魚のため必見。



ウシバナトビエイ

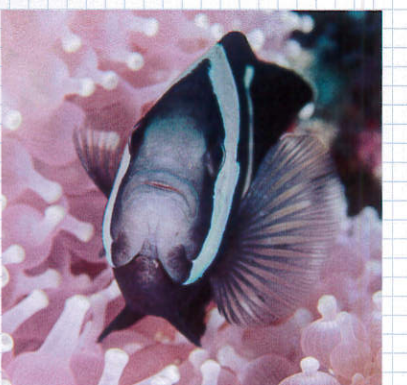
腹面から見た形が、牛の鼻に似ている事が和名の由来。秋には100尾以上が群れて乱舞することもあり、その迫力は圧巻。



クマノミ

限定色

小笠原のクマノミは白と黒のモノトーンボディ。通常よく見られるオレンジや黄色い部分は見られない。



小笠原へのツアーは、小笠原ツアー比較・検討サイト【小笠原ベストマッチ】

www.lets-go-ogasawara.com

ダイビングサービス、宿泊施設などの現地情報 【父島】小笠原村観光協会

www.ogasawaramura.com

04998-2-2587

【母島】小笠原母島観光協会

www.hahajima.com

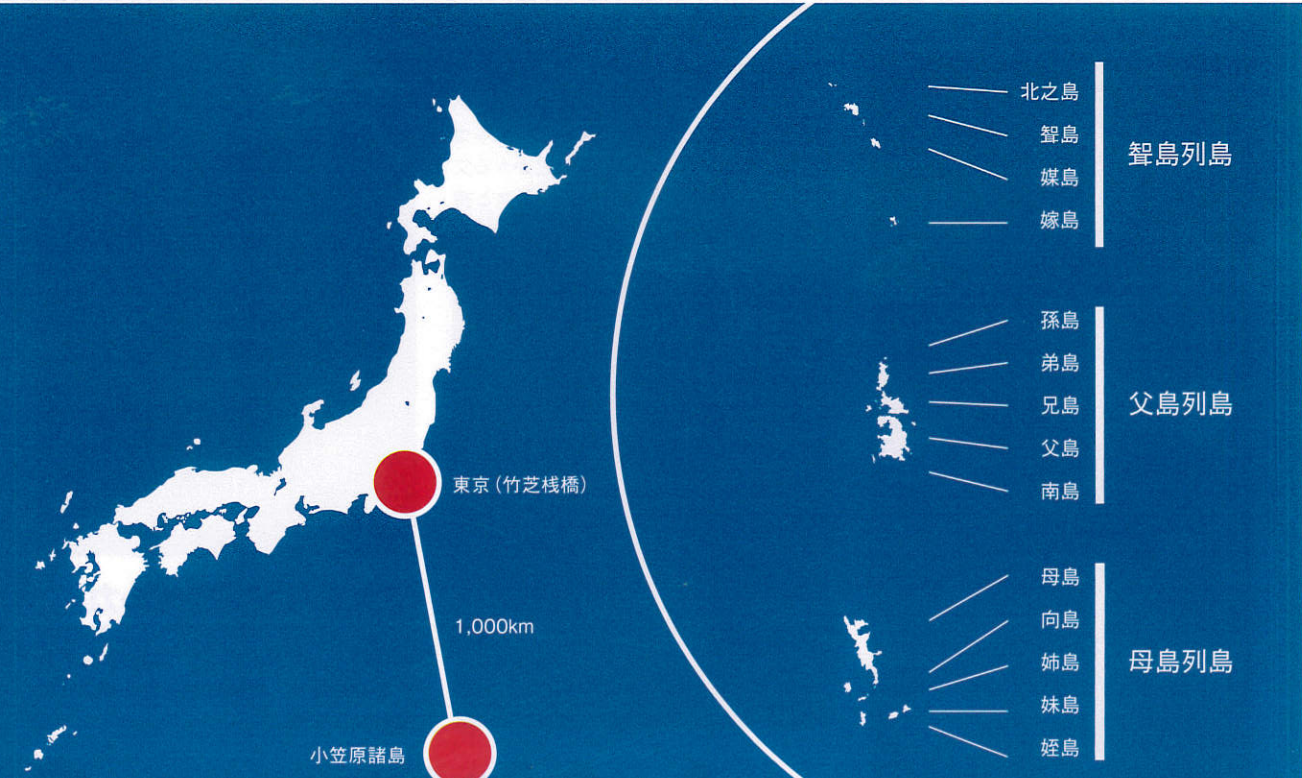
04998-3-2300



OGASAWARA DIVING POINT MAP

小笠原ダイビングポイントマップ

東京から約1,000km離れた亜熱帯の島、小笠原諸島。「ポニンブルー」と呼ばれるどこまでも深く深く透き通った海では、カラフルなサンゴ礁や熱帯魚、大型の魚の回遊など、ダイナミックな光景が楽しめる。父島列島、母島列島、聳島列島には潜るスポットが多数点在。嫁島「マグロ穴」や母島「四本岩」では巨大イソマグロが回遊し、「門ロック」のウシバナトビエイ、美しい珊瑚礁で人気の妹島の「ブルーリボン」、巨大なシロワニが悠然と泳ぐ「鹿浜」などダイバーなら一度は潜ってみたいといわれる場所が多数点在、どこを潜ってもここにしかないダイナミックな景色が待っています。



父島唯一の回遊魚スポット。ウメイロモドキやカスミアジ、ツムブリ、クマザザハナムロなどが根の間を群れる。時にはイソマグロやツバメウオの群れなどの大型回遊魚も。



秋口になるとウシバナトビエイが集まりだし、12月前後にそのピークを迎える。ときに100尾以上で乱舞するその姿は圧巻。その周りをギンガメアジやイソマグロが取り巻くことも。



ダイナミックな地形のこのポイントの主役は何と言ってもシロワニ。秋から冬にかけて多く見られる。岩の穴などの暗がりでも悠然と泳ぐその姿は圧巻で、ダイバーの頭上ストレスを泳いでいくことも。

聳

聳島(ケータ)列島

- 一之岩
- 二之岩
- 三之岩
- 四之岩
- 北之島・サメ穴
- 北之島
- 中之島



ケータ列島嫁島にあるポイント。潮止まりを狙ってエントリーすると、一面ウメイロモドキやクマザザハナムロ、ナメモンガラの壁が現れる。アオウミガメとの遭遇率も高い。



小笠原にはたくさんの沈船スポットがある。ここは60数年前の沈船がバラバラな状態で多数沈んでいることからその名前がついた。魚たちの絶好の住処となっており、ゆっくりと魚を見ることが出来る。

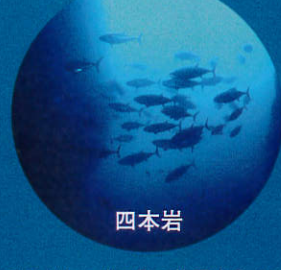
父

父島列島

- 孫島
- 弟島
- 兄島
- 父島
- 南島
- 母島
- 向島
- 姉島
- 妹島
- 姪島



多くのダイバーのあこがれる小笠原を代表する超人気スポット。ケータ列島の嫁島にある。水深15メートル前後のアーチに入ると、多い時は100尾ものイソマグロの群れがグルグルと回遊する。

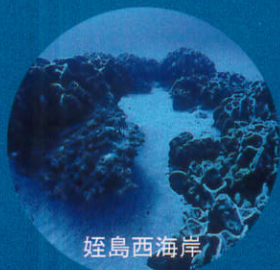


そそりたつ岩の影で旋回するイソマグロの群れを間近に観察できるポイント。5月ごろをピークに100匹ほどが所狭しと集結する。ノコギリダイ、ヨスジエダいの塊やフエダイの群れも見られる。主のようなスジアラやコクハンアラも住み着いている。てっかいアオヤガラも群れがいい感じ。

母

母島列島

- 嫁島
- 媒島
- 母島
- 向島
- 姉島
- 妹島
- 姪島
- 北の根
- コーラルガーデン
- 後島
- ジャックポイント
- 北港平根
- 女根
- 山崎の鼻
- 石門崎
- 東崎
- ウエントロ
- 東崎
- 長浜
- 猪熊崎
- イワシ根
- 西浦
- 蛇掛
- めがね岩
- 四本岩
- 脇浜
- 御幸の浜
- ビリビーチ
- 蓬菜根沈船
- 西島II
- 西島I
- コベベ
- コベベ
- 小湊
- 水浜
- 向島
- クジラ待根
- オサドリ
- ササヨ根
- 姉島
- サメ穴
- 二本岩北沈根
- ドブ磯
- 北港平根
- 山崎の鼻
- 石門崎
- 東崎
- ウエントロ
- 東崎
- 長浜
- 猪熊崎
- イワシ根
- 西浦
- 蛇掛
- めがね岩
- 四本岩
- 脇浜
- 御幸の浜
- ビリビーチ
- 蓬菜根沈船
- 西島II
- 西島I
- コベベ
- コベベ
- 小湊
- 水浜
- 向島
- クジラ待根
- オサドリ
- ササヨ根
- 姉島
- サメ穴
- 二本岩北沈根
- ドブ磯
- 北港平根
- 山崎の鼻
- 石門崎
- 東崎
- ウエントロ
- 東崎
- 長浜
- 猪熊崎
- イワシ根
- 西浦
- 蛇掛
- めがね岩
- 四本岩
- 脇浜
- 御幸の浜
- ビリビーチ
- 蓬菜根沈船
- 西島II
- 西島I
- コベベ
- コベベ
- 小湊
- 水浜
- 向島
- クジラ待根
- オサドリ
- ササヨ根
- 姉島
- サメ穴
- 二本岩北沈根
- ドブ磯



珊瑚だけでも大変ごたごたのあるポイントだが、そこに生きる生き物たちの姿も多様で魅力的で謎めいている。1ダイブでバリエーション豊かな風景が楽しめるポイント。そこへ毎度毎度サプライズも訪れるものだから、もう、亜空間へ引きずり込まれる思いだ。



ミドリイシサンゴの絨毯の上には相当年季が入ってそうなホウセキキントキが列をなし、人を知らないアジアコショウダイたちがつづらな瞳でこちらを見てくる。そんなエントリーから始まる、色鮮やかな物語。

心、動く島。小笠原